

献血会場で骨髓バンクのドナー登録を呼び掛ける「滋賀骨髓献血の和を広げる会」のメンバーら(7月、湖南市・甲西文化ホール)＝同会提供



白血病など血液疾患の治療で使われる骨髓の提供者(ドナー)の新規登録者が近年、滋賀県内で急増している。大学や商業施設などの献血会場でドナー登録を呼び掛ける登録会を増やしたことが功を奏し、若い世代にも浸透しつつある。

献血会場に説明員、若者浸透

ドナー登録は18歳以上54歳以下が対象で、日本骨髓バンク(東京)によると、県内のドナー登録者数は現在5171人に上る。

このうち新規登録者は2年前までは年間200人前後で低調だったが、2016年度に前年度の3倍を越す793人に達し全国トップの増加率を記録すると、17年度には883人(全国15位)に増えた。20代が占める割合も全国平均(14.9%)を上回り20.7%(同7位)に上昇した。

新規登録者が急増した背景には、県内のボランティア団体「滋賀骨髓献血の和を広げる会」(甲賀市)が献血会場で開く登録会を増やしたことがある。

14年度までは毎年40回程度だったが、同会が15年度から制度を説明して登録を求める「説明員」の養成に

乗り出した。県社会福祉協議会がシニア層を対象に開く「レイカディア大学」の受講生に志願者を募り、研修を実施。12人だった「説明員」は18人に増え、登録

大津で15日、バンク推進大会

「骨髓バンク推進全国大会2018 in 滋賀」が15日午後0時半から、大津市和邇高城の和邇文化センターで開かれる。同日の「世界骨髓バンクドナーデー」に合わせ、骨髓移植にまつわる作品を書いた人気劇作家らが講演する。

主催の日本骨髓バンクによると、白血病や再生不良性貧血などで骨髓移植を受けた患者は昨年度約1200人で、今年7月時点でなお約3900人の患者が移植を待っているという。

近頃は大学やシニアセンターの献血会場でも開けるようになり、20年以上前からボランティアを続ける「広げる会」事務局の片岡智二さん(46)は「自由に動ける年配の説明員が増えたことで、若者が多い会場で重点的に活動

当日は、演劇ユニット「iaku」の横山拓也さんと移植経験者のほか、滋賀医科大学大付属病院の木藤克之血液内科長、「滋賀骨髓献血の和を広げる会」の片岡智二さんも講演する。

アトラクションでは同市出身のピアニスト酒井美生穂さんの演奏、映画「スタ・1・ウォーズ」のコスチュームで活動するボランティア団体も登場する。入場無料。問い合わせは日本骨髓バンク03(5280)8111。

(岡本早苗)

骨髓ドナー
油日て急増

同校生理解移植の話を検